

ブラジルの金利引き上げについて

2014年12月4日

ブラジル中央銀行は12月3日(現地時間)の金融政策委員会において全員一致で政策金利の0.50%引き上げを決めました。これで同国の政策金利(翌日物国債レポ取引金利: Selic)は11.75%となりました。引き上げは2会合連続となります。市場関係者の事前予想では0.25%の引き上げ幅にとどまるとの見方もありましたが、前回を上回る引き上げ幅となりました。実施後の金融、為替市場への影響は限定的となっています。

《政策金利引き上げの背景》

11月28日(現地時間)に発表されたブラジルの7~9月期GDPは前年同期比-0.2%でした。景気の後退から抜け出せない状況下での今回の利上げ実施の背景としては、依然として前回の利上げと同様に、①インフレ抑制、②自国通貨の安定が挙げられます。

- ①ブラジルでは、通貨安による輸入物価の高止まりや財政支出の拡張によりインフレ率が依然として高い水準にとどまっています。
- ②ブラジル・レアルは、中東・ウクライナなどの地政学的リスクによる新興国からの資金逃避の動きが一旦収束した後も、下振れしやすい変動率の高い状態が続いています。

《今後の見通し》

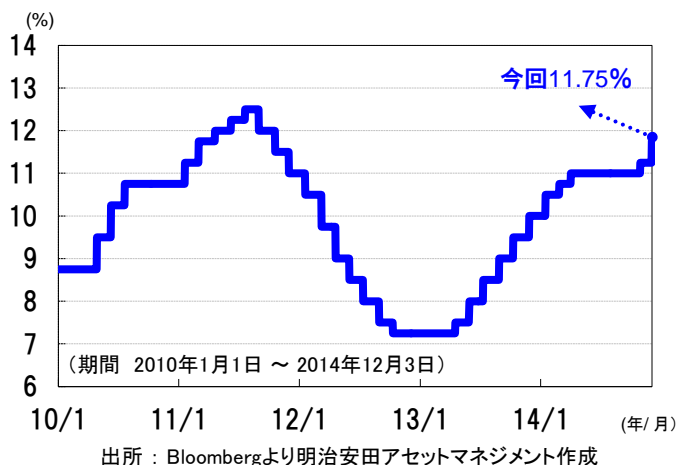
景気については、後退期入りしているとの見方が広がっています。特に主要産業である自動車では輸出の減少が続いています。個人消費も9月はプラス(前年同月比)に転じましたが、まだ低調です。

経済失政を問われている大統領は信任回復のため民間金融機関幹部を次期財務大臣に起用することを決めています。現在同国のインフレ率はインフレターゲットの上限(6.5%)近辺にあります。金融引き締め政策の強化により早期の鎮静化を目指すと考えられます。

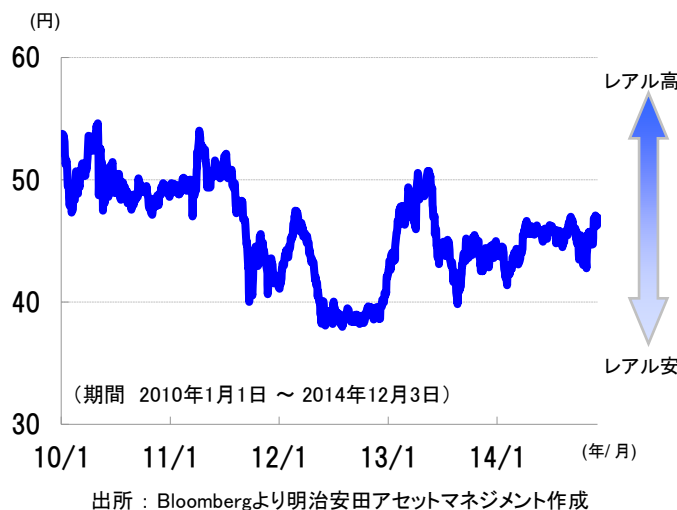
為替レートについては、下落場面では政府・中央銀行の自国通貨買いに支えられると考えられますが、当面は、神経質な動きが続くとみられています。

状況によっては、安全資産選好の動きが強まる局面があることも考えられるため、当社でも引き続き同国に関わる市況動向を注視してまいります。

《ブラジルの政策金利》



《ブラジルレアルの対円推移》



- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目録見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。